

Senriyama

千里山建築会会報



第31号 2021年1月31日発行

千里山建築会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

関西大学環境都市工学部建築学科内

TEL : 06(6368)1121 (代表)

FAX : 06(6368)0093 (建築学科共通)

HP : <http://senriyama.xsrv.jp/wp/>

Contents

副会長挨拶	西田佳弘 (13期)	1
スプリングフェスティバル懇親会 2020 報告	市原 淳 (22期)	1
退職にあたって	江川直樹	2
関大の23年間	河井康人 (3期)	3
退職にあたって	伊藤淳志 (7期)	3
建築学科の近況 教室だより	教育主任 木下 光	4
2019年度 関西大学卒計展覧会報告	尾崎 瞳 (50期)	5
山田稔先生ご逝去のお知らせ		5
事務局から		6

副会長挨拶

西田佳弘 (13期)

千里山建築会の皆様、こんにちは。前期から引き続き副会長に就任させていただいております13期の西田です。どうぞよろしくお願い致します。

私は、堀内三郎先生のご指導の下、昭和60年に大学院の修士課程を修了し、西田佳弘 副会長建設コンサルタント会社を経て一般財団法人関西情報センターに勤務しています。仕事は、国や地方自治体からの防災関連の調査・研究業務に従事しており、研究室で学んだ防災計画分野を細く長く続けています。と言っても今年で60歳となり、来年3月末に定年を迎えます。

最近、平成25年の災害対策基本法の改正に伴う地区防災計画制度を普及させるために、内閣府から「地区防災計画ガイドライン作成業務」に携わることとなりました。この活動がきっかけとなり、「地区防災計画学会」の設立に協力し、地区住民等が作成する計画策定の支援を行っています。

近年、大阪北部地震等を始め大型台風等による豪雨災害に見舞われており、地球温暖化の影響も受けて広域的な被害をもたらしています。このような大規模自然災害に加え、今年はパンデミック（新型コロナウイルス）を含む複合災害に備えた防災対策に取り組まなければならない状況となっています。このような状況下で、益々災害に対する日頃からの備えの重要性を



知って頂き、地域防災力の向上につながる活動を続けていきたいと思っています。

千里山建築会では、企画運営部会長を担っており、部会メンバーや幹事等の協力の下に、昨年度には建設業界に就職を考えている関大生・関大院生を対象に、現役活躍中のOBOGを招いて「建築学科学部・大学院生と建設関係業界 OBOG との交流会」を関大イノベーション創生センターのレセプションスペースにて開催しました。交流会には、在校生と卒業生、教員合わせて40名近く参加頂きました。参加者より高評を得ましたので、今年度も引き続き開催を企画していました。他にも毎年恒例の「スプリングフェスティバル」懇親会を始め、「夕陽丘まちあるき」見学会も企画・検討しておりましたが、コロナ禍の状況により開催できない状況が続いています。

一方で、千里山建築会の情報発信として、広報部会を中心にホームページのリニューアルに取り組みされており、会員に対して有益でタイムリーなコンテンツを収集・配信しています。

リアルな懇親会、交流会等の開催が困難な状況下ではありますが、オンライン型を含めて会員相互の情報交換、交流の場となる企画を引き続き検討を進めていきたいと考えております。新たに企画ができました際には、ホームページでご案内させていただきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

スプリングフェスティバル懇親会 2020 報告 市原 淳 (22期)

毎年恒例の懇親会をスプリングフェスティバルと同日開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。右の写真2枚は当日撮影のもので、桜はほぼ満開ですが、人は閑散としています。来年は行える事を祈ります。



今年度ご退職される3名の先生方から

メッセージをいただきました

退職にあたって 名誉教授 江川直樹

平成14年9月制定の「建築意匠設計系教員の任用基準」による任用人事により、関西大学専任教員・教授として、平成16(2004)年4月に着任し、以降、定年延長、特別契約教授を経て、2021年3月に70歳を迎えることとなり、17年間の関西大学教育職員としての任期を終えることとなりました。思いの他の長期間となってしまいました。ありがとうございます。

1976年に東京で大学院を修了し、設計事務所に勤務していましたが、父の死を契機に、中・高を過ごした(母の残る)関西に戻ることを決意し、1982年に勤務事務所の大阪事務所を開業・主宰することになって、関西を主たる舞台として集住環境の再編デザインに取り組んできました。その後、いくつかの大学で設計演習の非常勤講師を継続経験する中で、縁を頂き、関西大学に奉職することになりました。着任後は、いわゆる設計事務所では難しいような関わり方で集住環境の再編に関わりたいたと考えていました。

建築や都市のデザインを専門とする私にとって、専門家の役割とは、潜在的なニーズに応えることであり、潜在的なニーズとは、重要だけれども人々が気付いていないことだと考えています。経済至上主義下での世間の一般的なニーズに応えては、むしろ環境や社会をダメにする危険があることは、近年の環境状況を見れば明らかです。とりわけ私は、場所のポテンシャルを社会化することが特に重要であると考えており、そのために、「場所の声を聞く」(注:同名の著書を2011年10月に関西大学出版部より刊行)という姿勢が重要であると考え続けています。そういったことを若者に知ってもらい、体感してもらい、出来れば納得してもらいたいと、様々な学外のフィールドワークの機会を作ってきました。その経験からの話ではありますが、学生たちの協働能力には素晴らしいものがあるということに気付いたのです。最近、若者のコミュニケーション能力の不足が声高に叫ばれますが、協働の経験のなかから、決して仲間内だけではない社会とのコミュニケーション能力も磨かれているように思えます。協働経験のなかで任された責任に応える意識、成し遂げる達成感、社会との関わりから

生まれる豊かさ意識などが育まれ、同時に自主性の確立と、協働社会の他人を思いやる心も形成されているように思えます。協働の苦労とそれゆえの豊かさを経験することは、大学人生における重要な事項であるだろうし、その素晴らしい成果に遭遇する機会が大変多かったのです。協働では成績が評価できないという声も良く耳にしましたが、こちらの姿勢が問われるところではないだろうかと思えるようになりました。

本学に着任後の最初の学生主導の学外フィールドワークが、カンボジアのカンポンプロックという集落の実測調査でした。1年の中でその水域面積が3倍にも変化するトンレサップ湖の浸水域に存在する500戸ほどの美しい集落の在り様を、浸水期と渇水期の2期、それぞれ1ヶ月間にも及ぶ滞在調査、調査野帳の夜毎の整理、帰国後の図面化の作業は、多くの協働がなければ実施できません。年度ごとにリーダーは変わりつつ、常に学生が主導してのフィールドワークは、場所の持つ意味の大きさを体験するだけでなく、学生が協働の苦労と喜びを経験する良い機会となり、彼らの協働能力を認識する大きなきっかけとなりました。

その後も、いわゆる過疎地域、丹波市青垣町での空き家再生とそれによって生まれた佐治スタジオでの地域と交流し地域を再編していく活動、八幡市男山団地での大規模団地のストックを活かして再編していく活動、そのための欧州住環境再編現場実測調査、河内長野市南花台でのいわゆるニュータウンの再編への取り組み、福井県大野市での地域再編活動等、すべて現地での活動は学生が主導しての協働作業でありました。協働する学生の姿勢とその成果、素晴らしいその協働能力は、私が大学人となって知ることのできた大きな喜びのひとつであることをお伝えし、退職に際しての言葉に代えさせていただきます。



関大の23年間 名誉教授 河井 康人(3期)

1998年から23年間、関大建築学科で教鞭を執らせて頂いて、昨年70歳になり退職することになりました。大阪工大時代を合わせると教員生活は43年間になり、振り返ってみると長くもあり、短くもありませんが、浅学菲才の私にとっては思った以上の成果を残すことができたのではないかと感じています。



1969年に建築学科に入学した3期生で、修士課程、京大院の博士課程を経て大阪工大に赴任しましたが、当時は夜間の課程もあり、学生数も昼、夜それぞれ150人以上で教育でへとへとなり、研究も思うようにできず陰鬱な日々を送っていました。恩師の櫻井美政先生が退職されることになって応募したところ、母校に戻れることになり大変嬉しかったことを覚えています。

関大ではしばらくの間ゆっくりと過ごさせて頂いたのですが、2007年から副学部長、12年から学部長を4年間と多忙でしばしば辛い日々を過ごすことになりましたが、今から考えると良い経験をさせて頂いたと思っています。

研究面では、境界積分方程式を用いた音場解析に取り組み、法線微分型の式を用いた薄板周りの音場や鏡像法を用いた吸音面の面積効果の予測等で新し

い手法を編み出したことや、後になって、エッジ効果抑制という新しいアイデアによる道路遮音壁を開発し、遮音壁背後の音のエネルギーを従来のものと比較して1/10にする方法を考案したことは最大の成果であり、現在はいくつかの企業でこの特許を使用させて頂いています。この新型遮音壁の考案に対して発明賞やいくつかの学会賞を頂くことができたことは望外の喜びになりました。また、現在は放映されていませんが、MBSの30分番組「夢の扉+」で取り上げて頂いてかなりの反響がありました。

人材育成では、卒業生二人が近畿大学、島根大学の教員となって活躍してくれているのは嬉しい限りです。また、音響学会の関西支部長、茨木市の建築審査会会長、大阪府・大阪市の大法立地審議会委員など社会的な貢献も多くさせて頂きました。2017年には、建築学科の50周年記念事業を皆様の協力を得て開催することができ、何とか卒業生教員の責任が果たせたと安堵しています。

この原稿を書いている時点ではどうするか決めていませんが、幸いにも今のところ元気ですので、退職後は開発したいいくつかの特許をもとに音響のコンサルタントの事業ができればと考えています。私が大学生の頃とは世の中も大きく変化してきていますが、有能な人材を育成し、有益な研究成果を生み出して社会に貢献するという大学の普遍的な使命は変わっていないと思います。建築学科の今後の更なるご発展と、卒業生の皆様のご健勝・ご活躍をお祈りしたいと思います。

退職にあたって 教授 伊藤 淳志(7期)

1983年(昭和58年)に関西大学建築学科の助手として任用されて以来、38年が経ちました。大学の学部生および院生の6年間を加えますと、44年間関西大学にお世話になりました。まずは、この間に会った多くの方々に、長々のお付き合いをいただきましたことにお礼を申し上げます。永かったという感覚はあまりないのですが、思い返してみますと色々なことが浮かんできます。

私は学部および院では故・山肩邦男先生の研究室(助手は現広島大学名誉教授富永晃司先生)に所属して、建築基礎工学の基礎を指導いただきました。その後4年間建設会社に勤務の後、富永先生の後任として関西大学に着任しました。学位を取るまでは必死に研究に取り組んでいましたが、その後はマイペースにやってきましたように思っています。山肩先生は、建築学科創設

期に関西大学に赴任されて、関西大学を建築基礎工学の研究のメッカにするとよく言われていました。実際にそうなったと思っていますが、後を継いだ私もそのことを常に意識して教育・研究を行ってきたのも事実です。ただし、昨今は全国的に建築基礎の技術者が極めて少なくなってきており、後継者を育成できていないことに責任も感じています。幸い、私の後任に優秀な建築基礎



工学分野の先生が着任される予定ですので、メッカはまだ続いていくものと安堵しております。

在任中の最も大きな転換点は、2005年に文化財の保存修復に関連する研究を始めたことでした。文学部の吹田浩先生からお声がけをいただき、エジプトのサッカーにある地下埋葬室の保存修復に関わりました。それ以来、関西大学国際文化財・文化研究センターにも所属して、世界のいくつかの文化財の調査にも出掛けました。南米のマチュピチュ(写真)やイースター島を訪れることができたことは極上の思い出になりましたし、関西大学内外の多くの文系の先生方とお付き合いできたことも貴重な経験となりました。

同窓会活動を通じて、多くの卒業生の方々とお付き合いいただきました。私が大学に着任した当時は、千里山建築会ができてすぐの上原茂和初代会長のとき

で、幹事の皆さんは同窓会の運営にご苦労されてきました。その後、山肩先生の後ろ盾もあって活性化していった記憶があります。それ以来、私も卒業生としてまた教員として、同窓会運営のお手伝いをしてきましたが、これからは一卒業生としてご協力できればと考えています。

大学では、山あり谷ありの38年間でしたが、これからは良い思い出だけを留めて自然体で楽しく過ごせればと考えております。幸い体だけは元気ですので、妻孝行として世界旅行を目論んでいます。昨今のコロナ禍で直ぐにはいきませんので、しばらくは準備期間となりそうです。卒業生の皆様方にもまたお会いできる機会があるかと思えます。その際は遠慮なくお声がけいただければ幸いです。

建築学科の近況 教室だより 建築学科 教育主任 木下光

2019年度末の2020年3月14日卒業式に出席し、はなむけの言葉を贈る予定でしたが、開式数分前に出席がかなわなくなりました。シンガポール国立大学建築学科との打ち合わせとジェフリー・バワ及びバワの協働設計者・芸術家への取材調査から日本に帰国したのが3月9日で、自宅待機という判断がとられたためでした。あれから、9ヶ月、コロナ禍一色の一年になろうとしています。2020年度の4月1日より建築学科教育主任を拝命しておりますが、今年度はコロナ禍であらためて教育・研究のあり方を問われる一年でした。

春学期は対面での講義・演習ができなくなり、リモートによる教育を試行することになりました。特に入学した1年生は大学に来ることができず、図面も引いたことのない彼らにどのようにリモートで建築教育を行うか、2年生から4年生における設計演習の敷地調査もままならない中で、どのようにデザインのシードとなるリサーチを行うかなど、担当の先生をはじめ、私たち教員の知恵が試されることになりました。秋学期はほぼ対面で行っています。小規模なクラスターはありましたが、2月に特別研究や修士論文・設計の公聴会を対面で行うという共通の目標に向けて、教員・学生、細心の注意を払いながら、日々の教育・研究に取り組んでいます。ZOOMなど、春学期で得た手法を対面でもうまく組み合わせながら質の高い教育ができる可能性を感じています。禍福は糾える縄の如し、これまでの発想では、多くの識者をゲストとする場合、千里山キャ

ンパスに来ていただくことが前提で、それはコスト面から困難を要しましたが、リモートを巧みに用いれば、国内外の大学やフィールドと質の高い連携をとることは可能です。コロナ禍は国際化とスモールプラネットがその背景にある一方で、捉え方次第ではこれまでにない協働を築くことができるかもしれません。個人的には、コロナ禍でソーシャルディスタンスの必要性や屋外でのアクティビティの安全性から、学生がキャンパスオープンスペースを巧みに使いこなしている風景の素晴らしさを感じます。他方、キャンパスは教室を量的に確保することではなく、学生が如何に多様に過ごせる環境であるかを建築的に考えさせてくれます。

建築学科の近況ですが、今年度も学部、大学院博士前期課程・後期課程に多くの新たな学生を迎えることができました。特に大学院において留学生が増えています。人事面では、今年度で河井康人教授、江川直樹教授、伊藤淳志教授がご退職され、2021年4月から新たに3名の先生をお迎えする予定です。17名の教員構成が大きく変わる節目の年です。関西では建築学科や建築学部の新設が目につきます。少子高齢化の中で、私たちも厳しい競争の中、本学建築学科の位置付けやコンセプトなど、あるべき姿を再考し、効果的に情報発信していかなければならない時期を迎えています。

20世紀高度成長期にできた本学建築学科ですが、今、私たちを取り巻く基礎的条件は大きく変わっています。多くの人々が常時と非常時は表裏一体であ

ると、阪神大震災から四半世紀を迎えた2020年に深思しています。この不安定な時代を生き抜くために、不安という荷物を共有し、時には一緒に持つプラットフォームとしての建築学科であることが求められていると思います。不安ではない不安定こそが常に新たな創造を生み出してきたことを、歴史は物語っ

ています。これまで以上の緊張感と努力だけでなく、教員、学生、同窓会である千里山建築会が三位一体となって、この難局の中で、本学建築学科のオリジナリティとは何かを明確に内外に示すことが必要です。建築学科並びに千里山建築会の発展に向け、ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年度 関西大学卒業設計展覧会報告 尾崎 瞳 (50期)

「第5回関西大学建築学科卒業設計展覧会2020」が2020年2月19日・20日で開催されました。第4回は千里山キャンパスの第4学舎にて開催されましたが、今年は関西大学博物館と関西大学の木下光教授のご協力のもと、第1回から第3回までの展覧会にも利用された関西大学博物館特別展示室で行いました。出展者は4つの研究室から計18名おり、準備から運営まで行いました。

例年、卒業生から出展希望者を募って展覧会を開催しております。内部の講評のみならず、外部の方にも見ていただきたい（特に一人暮らしの学生は親に直接見せられる機会になる）という意見があったことや、今年は卒業設計の雰囲気を感じてもらいたいという出展者の思いから、通常の作品展示に加えて作業風景写真も展示いたしました。また、より作品と顔を一致させる狙いのもと出展者一覧パネルも置かせていただきました。

当日は10時の開場から何人も来場者が見受けられました。博物館の展示室ということもあって、より静かな環境でじっくり見ていただけたようです。中には作品を隅々まで眺めてくれる来場者の方もおり、出展者は作者冥利に尽きる想いでした。

結果、外部から足を運んでくださった皆様も含め多くの方から感想やご意見をいただくことができました。学生主体のイベントであるため至らぬ点も様々でしたが、千里山建築会、木下教授、博物館の皆様、そして来場者の皆様のおかげで有意義な展覧会となりました。また4年間の集大成を自ら振り返る2日間により、卒業設計における学生時代の自分の思想を持ち続け、その上にこれからの経験を

培っていくことが大切だと感じさせられました。

コロナ禍により、対面での展覧会開催が難しくなった昨今ですが、デジタルネイティブならではのコンテンツを駆使すれば、より外部の方々に発信することも容易い時代となりました。時代の変化をチャンスと捉え、学内講評とはひと味違う経験となる卒業設計展覧会を、ぜひ後輩たちにも体験してもらいたいと思っています。

●概要

開催期間 2020年2月19日(水)～2月20日(木)
開催場所 関西大学博物館 特別展示室
出展者 関西大学 環境都市工学部
建築学科4年次生 18名

●来場者

関西大学:30名 / 他大学:35名
一般:14名 / 企業・団体:10名



山田稔先生ご逝去のお知らせ

山田稔先生におかれましては、去る2020年6月19日に享年90歳で逝去されました。

山田先生は永く神戸大学に在籍され、鉄筋コンクリート構造を中心とした建築構造の発展に多大な功績を残された後、1992年4月に関西大学建築学科に教授として着任され、2000年3月に退任されるまで、関西大学建築学科の発展に多大なる貢献をなされました。本学着任以前にも、1969年からの12年間は非常勤講師として講義を担当されていまして、蝶ネクタイ姿の山田先生の姿を懐かしく思い出される卒業生もたく

さんいらっしゃるかと思います。また、千里山建築会の総会、懇親会に何回もご出席いただくなど、本会の活動に積極的にご協力を頂きました。

これまでの関西大学および千里山建築会へのご貢献に感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



事務局から

この1年の事業実施状況と今後の事業について 井上寿也 (20期)

千里山建築会では、ホームページの活性化やメールマガジンの発行により会員の皆様への情報伝達を充実させるとともに、会報第30号や本号でお知らせしましたように、在学生への支援活動を行ってきました。この成果を受けて2020年度は、在学生への支援活動を軌道に乗せるための活動や卒業生向けの企画を検討しておりました。しかし、2020年3月以降、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、企画していた行事はやむを得ず中止し、本会幹事会もオンライン会議で9月に再開するまでは休止状態となりました。9月以降、このような状況下でもできることがないか模索しておりますが、現状では、ホームページ等による情報発信と会報発行を継続することしかできない状況にあります。会員の皆様には、千里山建築会として十分な活動ができていないことを深くお詫び申し上げます。

この原稿を書いている時点(11月末)では、新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、収束が見えない状況にあります。また、関西大学も感染防止のため、活動が大幅に制限されています。そのため、千里山建築会としては、当面、現状行っている活動形態を続けることになると思いますが、何卒、ご理解頂きますようお願いいたします。新型コロナウイルス感染状況を注視しつつ、状況が好転しましたら、検討していた企画を実施していきたいと思っています。その際は、ホームページやメールマガジンでお知らせしますので、ご参加頂きますようお願いいたします。メールマガジンが届いていない方で、配信をご希望されます方は、千里山建築会ホームページの「会員情報の入力・変更」に必要事項を記入の上、送信して下さい。

最後になりますが、2019年度の大学卒業式典は、新型コロナウイルス感染が拡大し始めていたため中止となり、学科単位での卒業証書授与式が行われるのみでした。千里山建築会としては、例年通り卒業生の皆様へ本会入会のご案内をしましたが、諸般の状況を鑑みて、2019年度の卒業生からは、特別措置として会費を徴収しないこととしました。事後となりましたが、ご報告します。

《編集後記》 2019年の12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルスは、あっという間に全世界に広まり、人々をパンデミックに陥れました。現在、第3波ということで、クリスマスもお正月もステイホームですね。このコロナウイルス感染症拡大防止の措置として、オフィスではリモートワークやIT化が進み、会議もオンラインで行われるようになりました。少しは働き方が改革されたでしょうか？ 国や大阪府の政策も苦労を重ねるも、決定的な解決には至っていないように思われます。日本ではマスクが定着し、アベノマスクに頼らずとも、みなさんおしゃれマスクをしているようです。その安倍総理も辞任となり、コロナによってさまざまな転換が訪れているのではないのでしょうか。前半は全く活動ができていなかった幹事会も9月1日にZoomによるオンライン会議を行いました。この会報もコロナ前からデジタル発行となっており滞りなく発行できました。コロナウイルスは変種が確認され、まだまだ長引くようですので、2021年度は幹事業務をオンラインで行うことや、HPコンテンツの充実が課題となりそうです。 市原淳 (22期)

会計報告

令和元年度(2019/4/1～2020/3/31)

収入の部		支出の部	
繰越金	¥1,875,413	SF 懇親会	¥12,979
SF 会費	¥13,000	HP 用サーバーレンタル料	¥12,960
郵便局利子	¥14	卒業式記念写真代	¥87,400
新規会員入会費	¥0	卒業写真郵送費	¥10,640
寄付	¥0	会議費	¥1,188
		学生OBOG交流会	¥13,968
		小計	¥139,135
		繰越金	¥1,749,292
合計	¥1,888,427	合計	¥1,888,427

繰越金明細	
郵便普通預金	¥1,724,459
りそな普通預金	¥452
現金	¥24,381
合計	¥1,749,292

事業報告

2019年度(2019/4/1～2020/3/31)

- 4月7日 スプリングフェスティバル・懇親会開催
第1回幹事会開催
- 7月1日 第2回幹事会開催
- 9月19日 第3回幹事会開催
- 11月9日 在学生・卒業生・教員交流会開催
- 12月10日 第4回幹事会開催
- 1月13日 会報第30号発行
- 2月19日-20日 卒業設計展覧会支援
- 3月19日 卒業証書授与式にて新会員勧誘、卒業写真撮影

なお、企画運営、総務、広報の各担当者は随時各部会を開催

スプリングフェスティバル懇親会2021について

スプリングフェスティバル懇親会2021ですが、現状、開催については未定です。開催できることとなりましたら、HPやメールマガジンでお知らせします。

